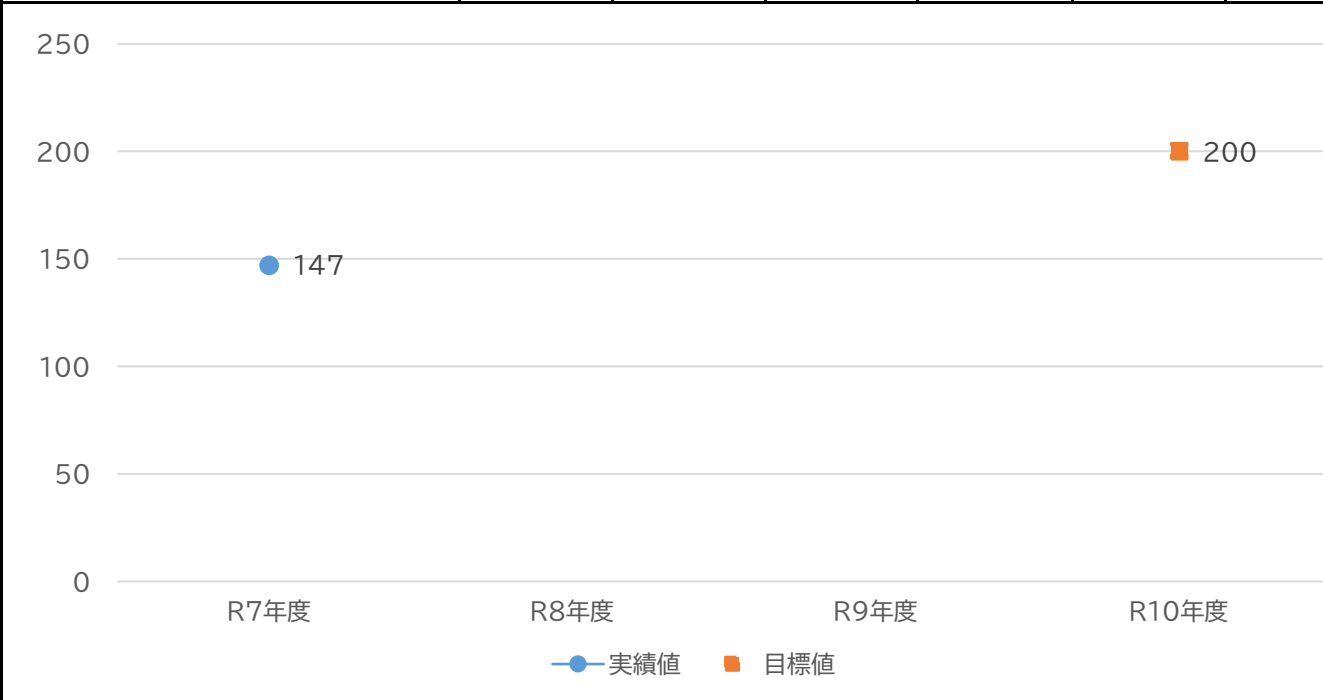


令和8年度 施策評価シート《佐賀市未来共創プラン》

政 策		05 農林水産	こどもたちが農林水産業をしごとに選ぶまち					
新しい技術の開発や導入、活用などによって、農林水産業のあり方は大きく変わっていきます。わたしたちが目指すのは「こどもたちが憧れ、将来の職業として農林水産業をしごとに選ぶ」まちです。佐賀が持つ豊かな農林水産の資源が次世代に引き継がれていくように、「スマートに稼げる農林水産業」というイメージの定着を図ります。								
2040年に目指す市民等の姿《総合計画》								
1 市民は、農業に魅力を感じ、豊かな農産物を誇りに思っている。 2 市民は、森林資源を循環利用することで、豊かな森の恵みを感じながら暮らしている。 3 市民は、有明海を守り、豊かな海の恵みを感じながら暮らしている。								
重点ポイント				目指す姿や重点ポイントと現状のギャップ				
・ 農林水産業の担い手を育てること ・ 農地・森林の集積・集約化によって、効率的な経営や整備を進めること ・ 佐賀が誇る海苔の生産が安定すること				・ 高齢化や後継者の不足が進み、農林水産業の担い手が減少している。 ・ 農業は、小規模な経営体の割合が多く、収益性が課題となっている。 ・ 森林所有者の高齢化、市外への居住等により、森林の管理が不十分である。 ・ 有明海の家況等の影響を受け、海苔の生産枚数が不安定である。				
政策のゴール	農林水産業産出額		基準値 R 5 年度	目標値 R 1 0 年度	実績値			
			R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度		
			351.8 億円	355.1 億円	425.9 億円			
	440.0 億円							
	420.0 億円							
	400.0 億円							
	380.0 億円							
	360.0 億円							
	340.0 億円							
	320.0 億円							
300.0 億円								
R7年度		R8年度		R9年度		R10年度		
		● 実績値		■ 目標値				

施 策	05-1 稼げる農林水産業		施策統括責任課	農業振興課
関係課	農業振興課、森林整備課、水産振興課			
重点的に取り組む施策の方向性				
・稼げる職業というイメージを定着させるため、作業の省力化や生産効率の向上、高収益化を図る取組を推進します。 ・最新技術の導入や農地の集積・集約化、ほ場や農道の大規模化等により作業の省力化・効率化を図り、農産物の安定供給や高品質化を推進します。 ・収益性の高い園芸農業への取組などを支援し農業従事者の所得向上を図ります。 ・林業においても、高性能林業機械の導入支援やドローンを活用した林道等の安全かつ効率的な管理を行うなど、最新技術を活用した取組を推進します。 ・水産業においては、漁場環境を改善し、海苔の安定生産と魚貝類の漁獲量の確保を目指します。				
《総合評価》総括と今後の主な取組				
●施策の成果指標である「スマート農業機器導入農家戸数（累計）」は、147件と目標値に向けて順調に推移している。「スマート林業推進機器導入台数」は、携帯型デジタルトラクターを15台購入したことにより、導入台数が33台となり、目標値を上回った。 重点的に取り組む事業については、スマート農業推進事業の「研修会・講演会等の参加人数」と森林経営管理事業の「森林整備面積」については目標以上の成果を上げており、森林経営管理事業の「高性能林業機械導入台数」とさが園芸888整備支援事業の「園芸農業の取組件数」、漁港施設ストックマネジメント事業の「浚渫及び栈橋等補修箇所数（累計）」については概ね順調に進んでいる。 以上を踏まえ、今後の主な取組は次のとおりとする。 ①重点的に取り組む事業の「スマート農業やスマート林業の推進」については、施策の推進に大きく効果を出していることから、今後も継続して取り組む。 併せて、デジタル技術や高性能機械等の導入・普及及び生産基盤の整備を引き続き推進し、作業の省力化・効率化並びに生産性の向上を図る。さらに、気候変動や資材価格の高騰など経営環境の変化に対応できる持続可能な生産体制の構築を推進するとともに、担い手の確保・育成や就業環境の改善を推進する。 ②重点的に取り組む事業の「佐賀海苔の安定供給のための漁場機能の保全・回復」については、機能保全計画に基づく計画的な浚渫及び栈橋補修を実施するなど、漁港施設の機能保全・長寿命化に成果を上げており、施策の推進に大きく効果を出しているため、今後も継続して漁港施設の計画的な補修及び浚渫に取り組む。				
年度別 主な取組内容				
R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
●スマート農業機器の導入支援 4,042万円（導入者数55名） スマート農業技術の普及・啓発 213万円（現地研修会259名、講演会・展示会101名） ●林業機械等のレンタル費用支援 294万円（補助対象者数5者） ●漁港の浚渫及び栈橋の補修 3億7,100万円（浚渫6箇所、栈橋補修3箇所）				

成果指標	
------	--

指標①	スマート農業機器導入農家戸数 (累計)	基準値	目標値	実績値																		
		R 5年度	R 10年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度															
		57	200	147																		
	 <table><caption>指標①: スマート農業機器導入農家戸数(累計)</caption><thead><tr><th>年度</th><th>実績値</th><th>目標値</th></tr></thead><tbody><tr><td>R7年度</td><td>147</td><td></td></tr><tr><td>R8年度</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R9年度</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R10年度</td><td></td><td>200</td></tr></tbody></table>							年度	実績値	目標値	R7年度	147		R8年度			R9年度			R10年度		200
	年度	実績値	目標値																			
	R7年度	147																				
	R8年度																					
	R9年度																					
R10年度		200																				
分析	令和4年度から実施してきたスマート農業推進事業において、スマート農業技術の普及・啓発活動を推進したことにより、増加したと考えられる。																					

指標②	スマート林業推進機器導入台数	基準値 R 5年度	目標値 R 10年度	実績値																	
				R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度														
		18	25	33																	
<table><caption>指標② データ</caption><thead><tr><th>年度</th><th>実績値</th><th>目標値</th></tr></thead><tbody><tr><td>R 7年度</td><td>33</td><td></td></tr><tr><td>R 8年度</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R 9年度</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R 10年度</td><td></td><td>25</td></tr></tbody></table>							年度	実績値	目標値	R 7年度	33		R 8年度			R 9年度			R 10年度		25
年度	実績値	目標値																			
R 7年度	33																				
R 8年度																					
R 9年度																					
R 10年度		25																			
分析	令和元年度から実施してきたスマート林業推進事業により、スマート技術を搭載した林業機械等の導入が進み、林業現場におけるデジタル技術の活用が拡大したと考えられる。																				

重点的に取り組む事業 ①

スマート農業やスマート林業の推進

成果	
----	--

【スマート農業推進事業】スマート農業の普及・啓発のための講演会・研修会を開催し、農業関係者360人が参加した。

【森林経営管理事業】高性能林業機械等のレンタル費用等に要する経費に対し、5事業者へ補助金を交付した。

デジタル技術の活用がすみ、事業の省力化・効率化や生産性の向上が図られた。また、研修会や講演会を開催し、スマート技術を取り入れた生産に取り組む農業者が増加した。

[illegible]

高性能林業機械のリースやスマート技術を搭載した機器の導入は一定程度進んでいるものの、物価高騰の影響により機器の導入、リース及び維持管理に係る費用が増加しており、農林業者の経営上の負担となっている。

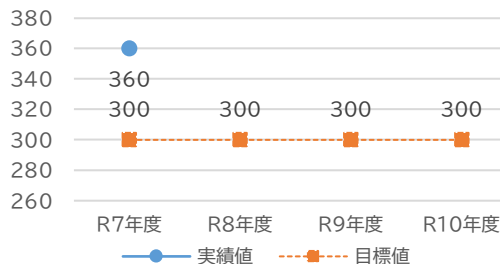
【参考：農業生產資材農機具物価指数（農林水産省）R2：100%（基準）、R7：116.5%⇒16.5%上昇】

今後の取組方針

スマート技術の活用に必要な機器の導入やレンタル費用に対する支援を継続するとともに、スマート技術の普及・啓発を推進し、農林業者がスマート技術を活用しやすい環境を整備することで、経営負担及び労働負担の軽減を図り、作業の省力化・効率化並びに生産性の向上を推進する。

主な重点取組事業

1

事業名		スマート農業推進事業																				
担当課		農業振興課		事業期間	令和 7 年度 ～ 令和 年度																	
事業概要・目的		農作業の効率化や生産性の向上を目的に、先端技術を活用したスマート農業を推進するため、スマート技術機器の導入に対する助成や普及啓発のための現地研修会、講演会等を開催する。																				
該当年度取組実績		スマート農業機器導入支援 補助55件 現地研修会3回（平坦部2回、山間部1回）参加者259名 講演会・展示会1回 参加者101名																				
成果	指標	研修会・講演会等の参加人数			単位	人	 <table><caption>実績値と目標値の比較</caption><thead><tr><th>年度</th><th>実績値</th><th>目標値</th></tr></thead><tbody><tr><td>R7年度</td><td>360</td><td>300</td></tr><tr><td>R8年度</td><td>300</td><td>300</td></tr><tr><td>R9年度</td><td>300</td><td>300</td></tr><tr><td>R10年度</td><td>300</td><td>300</td></tr></tbody></table>	年度	実績値	目標値	R7年度	360	300	R8年度	300	300	R9年度	300	300	R10年度	300	300
	年度	実績値	目標値																			
	R7年度	360	300																			
	R8年度	300	300																			
	R9年度	300	300																			
R10年度	300	300																				
年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																		
目標値	300	300	300	300																		
実績値	360																					
達成状況	達成している																					
決算額	年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 1 0 年度																	
	総事業費	42,543千円																				
	うち市費	0千円																				
	(※職員人件費は含まない) (千円)																					



主な重点取組事業

2

事業名		森林経営管理事業			
担当課		森林整備課		事業期間	令和 元 年度 ～ 令和 年度
事業概要・目的		高性能林業機械等のレンタル費用及びスマート技術を活用した機器の導入に要する経費を支援し、森林施業の省力化・効率化及び生産性の向上を図り、林業従事者の労働負担の軽減、安全性の向上及び担い手の確保・育成を推進し、持続可能な林業経営の実現を目指す。			
該当年度取組実績		高性能林業機械のレンタル費用等を支援：市内5事業者へ支援 林業事業者による高性能林業機械等の活用を促進することで、森林施業の省力化及び効率化を推進した。			
成果	指標	高性能林業機械導入台数			単位 台
	年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度
	目標値	25	26	27	28
	実績値	25			
	達成状況	達成している			
決算額	年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度
	総事業費	77,934千円			
	うち市費	0千円			
	(※職員人件費は含まない) (千円)				

29

28

27

26

25

24

23

R 7年度

R 8年度

R 9年度

R 10年度

—●—実績値

---■---目標値

25

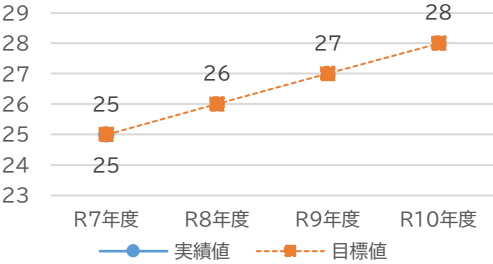
26

27

28

高性能林業機械
フォワーダ





重点的に取り組む事業 ②

園芸ハウスや機械・装置に対する支援

成果

【さが園芸８８８整備支援事業】園芸農家２２件に対し補助金の支援を行った。

収益性の高い園芸農業に必要なハウスの整備や機械・装置の導入に対し補助金を交付したことにより、コストの抑制や収量の増加を図り、農業経営の安定化に繋げた。

問題点とその要因

【さが園芸８８８整備支援事業】

園芸農家の新規就農者の補助事業取組件数は令和3年度から5件減少している。

また、収益性の高い園芸農業に取り組む農家は一定程度増えているものの、資材費・燃料費等の物価高騰により農業経営における所得の安定性は不透明である。これらのリスクを負うことが就農の足枷となっており、産地の衰退や担い手不足となっている。

今後の取組方針

園芸農業に必要なハウスの整備や機械・装置の導入に対する補助金の支援を行う。また、トレーニングファーム研修生及び就農セミナー等の開催による新規就農者の確保に努め、産地の活性化及び持続可能な農業生産を実践していく。

主な重点取組事業

1

事業名		さが園芸888整備支援事業					
担当課		農業振興課		事業期間	令和 7 年度 ～ 令和 年度		
事業概要・目的		農業者の所得向上や経営の安定化に向けて、収量・品質の向上や低コスト化、規模拡大等の収益性の高い園芸農業に取り組むための機械導入や施設整備等に対し補助金を交付することにより、所得向上の実現及び新規就農者等の農業への定着を目指し、産地の活性化を図る。					
該当年度取組実績		さが園芸888整備支援事業 取組実績22件					
成果	指標	園芸農業の取組件数			単位	件	
	年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度		
	目標値	23	23	23	23		
	実績値	22					
	達成状況	概ね達成している					
決算額	年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度		
	総事業費	169,693千円					
	うち市費	25,617千円					
(※職員人件費は含まない) (千円)							

24

23

23

23

23

22

22

23

23

23

23

R7年度

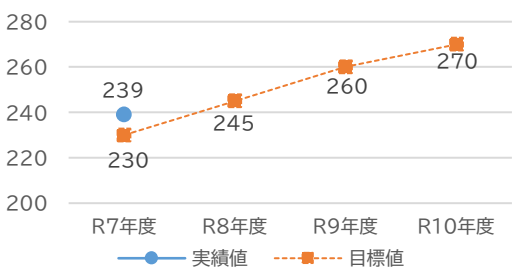
R8年度

R9年度

R10年度

実績値

目標値

重点的に取り組む事業 ③										
森林のゾーニングによる効率的な整備										
成果										
森林経営管理制度を活用し、自ら森林の手入れや管理を行うことが難しい森林所有者に代わって森林の管理を引き受け、間伐などの森林整備を進めた。 これまで、約45haの森林について、森林所有者から森林経営の受託を受け、そのうち、約20haにおいて間伐を実施した。 これにより、これまで十分に手入れが行われていなかった森林の管理が進み、水を育み、土砂災害を防ぐなど、森林が持つ働きを維持・向上させることにつながった。										
問題点とその要因										
市が行った森林所有者へのアンケートでは、過去10年間に間伐などの手入れを実施した森林所有者は3割弱にとどまっていることが分かった。 森林が健全な状態を保ち、森林が持つ様々な働きを発揮させるためには、森林の手入れをより一層進めていく必要がある。 手入れが行われない要因としては、高齢化などにより森林所有者自らが手入れを行うことが難しくなっていることに加え、小規模で分散した森林が多く、効率的に手入れを進めにくいことが考えられる。										
今後の取組方針										
森林を効率的かつ計画的に整備するため、市内の民有林を木材生産林と環境林に分け、それぞれの役割に応じた森林整備を進める。 木材生産林では、森林所有者の意向等を林業経営体と共有し、まとまりのある森林整備を進めることで、間伐などの森林整備を行いやすくし、木材を生産しやすい環境を整える。 環境林では、森林経営管理制度を活用し、市が森林所有者に代わって森林の管理を行うことで、適切な森林整備を進める。 これにより、水を育み、土砂災害を防ぐなど、森林が持つ様々な働きを将来にわたって守っていく。										
主な重点取組事業										
1	事業名		森林経営管理事業							
	担当課		森林整備課		事業期間		令和元年度～令和年度			
	事業概要・目的		森林の多面的機能の維持・発揮を図るため、市内民有林を木材生産林と環境林に区分し、それぞれの特性に応じた森林整備を推進する。木材生産林については林業経営体による森林経営計画に基づく森林整備を促進し、環境林については森林経営管理制度を活用して適切な経営管理を行う。							
	該当年度取組実績		・「佐賀市ゾーニングプラン」の作成 ・市が受託した私有林の整備 7.62ha							
	成果	指標	森林整備面積			単位	ha			
		年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度				
		目標値	230	245	260	270				
		実績値	239							
		達成状況	達成している							
	決算額	年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度				
		総事業費	77,934千円							
		うち市費	0千円							
(※職員人件費は含まない) (千円)										
						整備前		整備後		

重点的に取り組む事業 ④

佐賀海苔の安定供給のための漁場機能の保全・回復

成果

水産物供給基盤機能保全事業基本計画に基づき、漁船の泊地5箇所・航路1箇所の浚渫工事（浚渫土量12万2,300㎡）及び棧橋3箇所の補修工事を実施した。

また、対象21施設のうち15施設（進捗率約71％）の補修を完了した。その結果、漁船の安全な航行・係留や荷揚げ・荷降ろし作業の安全性及び円滑性が向上するとともに、対象施設の約7割で機能保全及び長寿命化が図られ、ノリ養殖をはじめとする漁業活動を支える漁港機能の維持に寄与した。

問題点とその要因

有明海特有の大きな干満差により、浮泥が毎年泊地や航路へ堆積する自然条件のため、漁港機能を維持するには継続的な浚渫が必要である。漁港管理者（市）は、毎年の設計・発注・施工管理などに加え、令和7年度から令和9年度までの計画事業費に約8億7,200万円を要するなど、多額の財政負担等が必要となっているが、漁業者の安全な活動のためには必要な取組である。

今後の取組方針

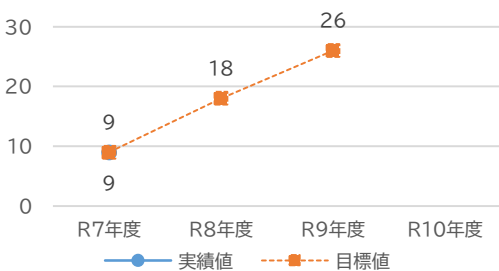
令和9年度までの水産物供給基盤機能保全事業基本計画に基づき、未補修となっている6施設について計画的に補修を進めるとともに、有明海特有の浮泥が堆積しやすい泊地・航路では、利用状況や浮泥の堆積状況を踏まえながら継続的に浚渫を実施する。

また、施設の点検・診断結果を維持管理に反映するとともに、国・県補助金を積極的に活用し、効率的・効果的な維持管理により施設の長寿命化を図ることで、ノリ養殖をはじめとする漁業活動を安全かつ安定的に継続できる漁港機能を確保する。

なお、令和10年度以降は、今年度策定する新たな計画に基づき、継続的かつ計画的な施設の維持管理を推進する。

主な重点取組事業

1

事業名		漁港施設ストックマネジメント事業					
担当課		水産振興課		事業期間	令和 7 年度 ～ 令和 10 年度		
事業概要・目的		市が管理している漁港において、浚渫工事や棧橋の補修工事を行うことで、漁業者が安全かつ円滑に漁業活動に取り組めるように漁港の管理を行う。					
該当年度取組実績		浚渫工事を 6 箇所、棧橋補修工事を 3 箇所行った。 ・浚渫工事 泊地 5 箇所 （戸ヶ里・寺井津漁港 3 箇所、広江漁港 1 箇所、佐嘉漁港 1 箇所） 航路 1 箇所（広江漁港 1 箇所） ・棧橋補修工事 3 箇所（戸ヶ里・寺井津漁港 1 箇所、広江漁港 2 箇所）					
成果	指標	浚渫及び棧橋等補修箇所数（累計）			単位	箇所	
	年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度		
	目標値	9	18	26			
	実績値	9					
	達成状況	達成している					
決算額	年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R 10 年度		
	総事業費	371,000千円					
	うち市費	119,431千円					
(※職員人件費は含まない) (千円)							